

校長雑感

(Vol. 8/R5.7.18)

=心のバリアフリー活動=

宮崎県では将来の共生社会を担う人づくりを推進するため、「高校から広がる共生社会推進事業」を実施しています。その事業の一つとして「心のバリアフリー活動の推進」に取り組んでいます。

本校の高等部は、宮崎県立宮崎西高等学校（以下「西高」といいます。）と宮崎県立宮崎南高等学校（以下「南高」といいます。）の2校との間で交流及び共同学習を行っています。先日、7／13（木）に西高の生徒さんが、7／14（金）に南高の生徒さんが本校に来て交流しました。

西高との交流では、音楽部と美術部の生徒さんが本校に来て、本校の1年生及び3年生と交流しました。音楽部の生徒さんとの交流では、リズム遊びや合唱等と一緒にしました。美術部の生徒さんとの交流では、生徒それぞれが宇宙をテーマに作成したものを一つにして、共同作品として仕上げました。

南高との交流では、南高の生徒さんが本校生徒が行っている作業学習の中に一緒に入って体験学習をしました。

両校の生徒さんとも、交流をしていろいろな感想を持ったようでしたが、皆さんのが口をそろえて言っていたことが「楽しかった」、「また、来年も来たい」、「これで終わるのではなく、もっといろんなことを知って、仲良くなりたい」などということでした。

また、西高の生徒さんには、実際に交流をする前に、本校の教頭が「障がいの捉え方（医学モデルと社会モデル）」について話をしました。そして、南高の生徒さんには、やはり交流をする前に、本校の教務主任と進路指導主事が「本校生徒の学習活動の様子」や「多様性と包摂性」について話をしました。両校の生徒とも真剣に話を聞いてくれまして、それぞれに学びがあったようでした。

この「心のバリアフリー活動」を経験した高校生が「将来、福祉の仕事をしたい」とか「特別支援学校の教員になりたい」などと考えてくれるようになったという話を聞きますし、実際にそのような進路を選択した高校生も少なからずいるようです。また、今回交流をした生徒さんの一人が「自分に何ができるかを考える」というような感想を言ってくれました。この生徒たちが社会に出て、例えば「障がい者に優しい街づくり」であったり、「障がいに配慮した製品開発」であったり、それぞれの分野で、できることを考え実践していくこそが「共生社会」につながります。そう考えるとこの「心のバリアフリー活動」の意義は大きく、今後も大切にしていきたい活動だなあと思います。